

ワイン用ぶどう摘芯機実演会を開催しました

7月21日に東御市和のヴィラデストワイナリーで摘芯機の実演会を開催しました。

今回の研修は長野県と21上小農業活性化協議会との共催で開催され、県下各地からワイン用ぶどう生産者やワイナリー、行政関係者など、100名ほどの参加がありました。

摘芯機とは従来手作業で行われていた摘芯作業をL字形のアタッチメントを取り付けた機械で行うもので、ワイン用ブドウの生産効率の向上等を図ることが期待されています。

当日はメーカー3社から、それぞれの摘芯機の特徴の説明と実演を行っていただきました。

参加者からは、「摘芯には多くの労力がかかるが、機械化できれば他の作業を行うことができ効率的」等の意見が聞かれる一方、価格が高いため、「どのくらいの規模から導入すればよいのか」などの意見が聞かれました。

今後は、試験場と協力し導入面積の検討等を行いながら推進していく予定です。



説明を聞く参加者



機械による摘芯作業